

## 「IDEATHON アイデアソン！」 アイデアを実現する最強の方法」

著者：須藤 順、原 亮

出版：徳間書店

発行：2016年9月13日



いつもと違う視点、いつもは見過ぎていた情報、いつもなら胸の内にし  
まっていた意見。そうした諸々を人々がお互いに出し合い、つなぎ合わせる  
ことでいつもなら気づけなかった答えを見出すことができるようになる。

本書のタイトルである「アイデアソン (ideathon)」とは、まだ一般に広  
く認知されてはいないが、新事業創造、地域活性化など多様な領域、主体の  
間で広がりを見せている新たなアイデア創出の方法である。本書の構成は以  
下の4部からなり、「アイデアソン」の基本から実践方法までわかりやすく  
書かれている。

- 第1部 アイデアソンを知る
- 第2部 アイデアソンを作る
- 第3部 アイデアソンを体験する
- 第4部 アイデアソンのメソッド

「アイデアソン」の源流は「ハッカソン (hackathon)」にある。ハッカソ  
ンとは「ハック (hack)」と「マラソン (marathon)」を組み合わせた造語で、  
IT エンジニアやデザイナー、プランナー、マーケッターといった人材が集  
まり、それぞれが保有する技術や知識、アイデアを活かして、1日から1週  
間程度の短期間に集中して新たなサービスやシステム、アプリケーションを  
共同で開発し、成果を競い合うイベントのことである。

ハックやハッカーという言葉に対してはネガティブな認識もあるが、元来  
は、「解析・改造する」「たたき切る」「切り刻む」「耕す」という意味合いが  
あり、システムやソフトウェアを含め、物事をより良くブラッシュアップす  
るというニュアンスをもっていた。そして、1999年ころからアメリカのIT  
企業を中心に始まり、わが国では、2011年の東日本大震災を契機に、震災

復興における復興支援活動の一環として東北地域のITコミュニティが手が  
けたことで広く知られるようになり、その後、楽天やYahoo! JAPAN、富士通、  
リクルートといった大企業のほか、青森県、岐阜県、経済産業省や総務省な  
どの行政機関による開催も報告されている。

アイデアソンは当初、ハッカソンの事前会議や導入部分として実施されて  
いた。ハッカソンでは、開発するサービスについて、参加者間でブレインス  
トームングといったアイデア創出メソッドを活用しながらアイデアをまとめ  
た後に実際の開発を進めるのだが、このアイデア創出を行う前段部分のみを  
単独で実施するものを、ハッカソンをなぞって、アイデア (idea) とマラソ  
ン (marathon) を組み合わせた「アイデアソン (ideathon)」と呼ぶようになっ  
た。

アイデアソンの最大の魅力は、参加者の多様性があげられる。組織や所属、  
職種、専門性のほか、年齢や性別の異なる多様な人が参加することにより、  
これまで出会うことのなかった情報や価値観、知が組み合わせられ、新たなア  
イデア創出につながるのである。

また、アイデアソンの目的は新事業創造、地域活性化、地域課題解決、教  
育・人材育成など多様であり、「第3部アイデアソンを体験する」では、そ  
れぞれの目的について実際に行われた事例と、どのような成果が得られたの  
かがまとめられている。大手企業の主催から自治体による地域課題解決まで  
いろいろなテーマで開催されており、それぞれの手法や成果が体験できるよ  
うな形で展開されている。

既存の習慣、ルール、組織の中では、表に出さなかったであろう知識や情  
報、経験が、突如、有用なものとして光を浴びる。一人の人の中に蓄積され  
たあらゆる要素が、上手に引き出され、活用されることで、その人自身も自  
己の存在を肯定し、活躍の場を得ていく。すなわちアイデアソンとは、アイ  
デアの創発を通じて、人がいかに新たな輝きの場を得るのか、そのプロセス  
を創発する試みでもあり、さまざまな広がりや可能性を感じる。

起業教育研究会 企画委員  
奈良県立五條高等学校  
進路指導部長／商業科長 谷口 達之輔